

田中銀之助歌曲集

ソミニカニガニヤケルにおおしなくすらすまばひニ
 ギーイズールのキョウコソのサチーノミツールにて
 とーのよーのすべてのさわーりきえはて

ソんカゆド一デタ一タエテイワエイワエ
 け一やわ一がともしらばいらは

大東亞讚歌

田中銀之助作曲

♩ = 84

1 バクオンタカクテンチュウクダケシ
 2 こうえんたとおくせんやをここがし

1 バクオンタカクテンチュウクダケシ
 2 こうえんたとおくせんやをここがし

1st vocal line: *f* ダ イン ク ウ マ サ ニ カ イ メ イン ホ ウ セ イン ス チ ゴ ク
 き ん じゅう ま さ に きょ う か い ん で ん せ い ん ち か く

2nd vocal line: *f* ダ イン ク ウ マ サ ニ カ イ メ イン ホ ウ セ イン ス チ ゴ ク
 き ん じゅう ま さ に きょ う か い ん で ん せ い ん ち か く

3rd vocal line: チ リ ジ ヲ ク ユ ン ラ ク ギ ラ テ ミ サ ケ ン ソ ン イ マ ヤ カ キ ユ イ シ テ
 り ょ う が ん く ら ら ゐ

4th vocal line: チ リ ジ ヲ ク ユ ン ラ ク ギ ラ テ ミ サ ケ ン ソ ン イ マ ヤ カ キ ユ イ シ テ
 り ょ う が ん く ら ら ゐ

Piano accompaniment: *f*

1st vocal line: ン キ ミ ケ ヤ コ レ ソ
 ん み よ や こ れ ぞ

2nd vocal line: ン キ ミ ケ ヤ コ レ ソ
 ん み よ や こ れ ぞ

3rd vocal line: *p* ダ イ ト ウ ア ノ
 だ い と う あ の

4th vocal line: *p* ダ イ ト ウ ア ノ
 だ い と う あ の

Piano accompaniment: *p*

mf ユも メと ヨい ヤき ブず ルく カ
われ

mf ユも メと ヨい ヤき ブず ルく カ
われ

ネ ノ の り び キ
ら の り び ゑ う

ネ ノ の り び キ
ら の り び ゑ う

f サた メた ヨえ サた メた ヨえ クも ニろ トと
トと

f サた メた ヨえ サた メた ヨえ クも ニろ トと
トと

f アは ラシテ スギテ
アは ラシテ スギテ

f アは ラシテ スギテ
アは ラシテ スギテ

po.....co.....rit.

rit.
クモラハハレミ
アツサキハ

a tempo

rit.
クモラハハレミ
アツサキハ

a tempo

rit.
イデテ
アキツタ
イデテ
アキツタ

po.....co.....rit

$\text{♩} = 66$
mp キミガミイ ツ ウミヨココエー
キミガミイ ツ ウミヨココエー

mf トワノヘイワ ココニキータリ
トワノヘイワ ココニキータリ

mf

mf キミガメグミソラニミチニ
 キミガメグミソラニミチニ

f ツキヌサチニタタミウタウニ
 ツキヌサチニタタミウタウニ

♩ = 84
 ハルケキノゾミオモエバウレシ
 ハルケキノゾミオモエバウレシ

f タカキノゾニミウレシヤ
 タカキノゾニミウレシヤ

島かげ 大桑いよ子 作詩

1. 島かけ隔て、霧こそたて
今宵ぞともつな 解きて出で行く
思ひはを暗き 浦わに迷ふ
暮れ行く を島よ
を島よ いざさらば
2. なつかし島かげ やよ島かげ
出で行くわが舟 汝やながむる
見やれば霧間に 緑はうすれ
つきせぬ名残りを 寄するか
鐘の音 いとしづか
3. 麗はし島かげ やよ島かげ
あの山この崎 いつか忘る、
かすかになりゆく そのかげしばし
かくすな夕霧 やよ夕霧
かくすな やよ夕霧

漁歌

安東正郎 作詩

1. 磯もとゞろの 櫓歌に明けし
晨漁の 舟こそ進め
海の太陽の 輝く処
行け行け漁夫よ 宝は待てり
2. 霞む沖辺の 夕風静か
勢ふ櫓歌は 次第に高し
月の光に 閃く真魚
欣びみつる あゝこの磯辺

送別

安東正郎 作詩

全校生徒斉唱

科戸の風の四方に和めば
木の芽もはるの世となりぬ

下級生斉唱

去年の卯月の花園に
ふと咲き出でし幼草
雨風知らぬかよわさを
何に頼りて生ひ立ちし

中級生二部合唱 (但シ単音ニテモヨシ)

霜にしほる、冬の朝
早になやむ夏の日も
君が庇のありてこそ
句はん春はめぐり来れ

上級生二部合唱 (但シ単音ニテモヨシ)

あゝ、別れこそ悲しけれ
時の流れの不思議さを
涙にこめて見やれども
思ひはつきずこの別れ

〔ソプラノ 下級生
全校生徒三部合唱〕第一アルト 中級生
第二アルト 上級生

1. されど今し業終へて
君は望みに輝ける
大海原に漕ぎ出づる
今日こそ幸の充つる日ぞ
門出たゝへて 祝へ 祝へ
2. 行けや吾が友師の君の
教へ守りて健やかに
雄々しく進まば人の世の
凡てのさはり 消え果てん
行けや吾が友 さらば さらば

大東亜讃歌 犬童球溪 作詩

1. 爆音高く天柱砕け 大空正に晦冥
砲声凄く地軸ゆらぎて 山村今や灰燼
きけやこれぞ 大東亜の 夢を破る
暁鐘のひびき さめよさめよ国民
嵐過ぎて雲は霧れ 旭日出でて蜻蛉とぶ
君が御稜威海を越え 永久の平和茲に來り
君が恵空にみち つきぬ幸福に民謡歌ふ
遠大けき希望 思へば嬉し
高き希望嬉しや
2. 紅焰速く山野を焦がし 禽獸正に叫喚
電閃近く両眼眩み 乾坤今や急転
見よやこれぞ 大東亜の 基礎築く
吾等の偉業 讃へ讃へ諸人
暴風過ぎて空は澄み 月は出で、蟲うたふ
君が御稜威海を越え 永久の平和茲に來り
君が恵空にみち つきぬ幸福に民謡歌ふ
遠大けき希望 思へば嬉し
高き希望嬉しや

神路山

大桑いよ子 作詩

1. 神路の御山に むらだつ鉾杉
色もさやかに 朝日こ昇りぬ
はふりが捧ぐる あしたののりとの
声澄みわたりて 神世ぞおぼゆる
2. たましく大前 詣づる人足
音もさくさく かしこみ集へば
絶え間もあらず 鈴の音清らに
かなづる神樂ぞ 木立に響ける
3. 笛の音木立の ひまより響けば
五十鈴の川波 玉琴をならす
あゝ、あゝ、萬代 たえせぬ水の音
しげ葉はとこよの 神路のみやま

荒城の月 土井晚翠 作詩

1. 春高樓の花の宴
めぐる盃かげさして
千代の松が枝わけいでし
昔の光今いづこ
2. 秋陣營の霜の色
鳴きゆく雁の数見せて
植うる剣に照りそひし
昔の光今いづこ
3. 今荒城の夜半の月
替らぬ光たが為ぞ
垣に残るは唯かつら
松に歌ふは唯あらし
4. 天上影は替らねど
栄枯は移る世の姿
写さんとてか今も尚
嗚呼荒城の夜半の月

花売女

犬童球溪 作詩

1. さ枝もたわゝに咲ける
小萩の花かご さげて
「やちまた をちこち 花よ花よと
よび来る 少女子 あはれ」
「折返し」
2. 白菊黄菊をもちて
聞かからやさしき 声に
「やちまた あちこち 花よ花よと
よびゆく 少女子 あはれ」
「折返し」